

澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成26年9月9日（火）16：30～16：45

場所：合同庁舎8号館

【冒頭発言】

9月8日（月）は首席交渉官会合の6日目。9時から昼を挟んで4時半頃まで行われた。時間の大半を国有企業の議論に充てた。国有企業の規律を設けること自体は皆同意しているが、その中で、定義規定を含めたテキストの書き振りを調整するのと並行して、アジアの国々を中心として、既存の国有企業を例外扱いして欲しいという意見が出てきている。これについてオタワ及びそれ以降に交渉官レベルで調整を行ってきた。ハノイでも、例外の扱いについては、分科会や時間外に集まって協議するなど調整がされてきている。一方で首席交渉官会合では、主として、テキストの論点を中心に議論されている。

国有企業に関して、新たな規律を設けて12カ国で合意することは意義あることとの確認がなされ、きちんとまとめようということが最初に確認された。テキストの条文をまとめるに当たり、論点になっているのは、定義規定をどうするかという点。定義規定も色々あり、例えば、国の関与の度合いや企業そのものの規模などいくつかの論点がある。そうした点について、各国がどういう立場でどういう意見なのかということが紹介され、それについて、首席交渉官で議論がなされた。ただ、定義は定義として決めないといけないが、形式的定義に当てはまる場合に、その企業に対する国の支援を今後一切排除するというだけでは困るので、その企業が国内で公共的なサービスを提供する場合には、政府が必要な支援を行うことを認めるという方向で議論がされている。こうしたことを認めるということと、国有企業の規律を設ける本来の趣旨として、海外で商業的な活動を行う場合には、公正な競争といえる状況を確認すべきだという、2つの点を両立させるためには、企業と政府との関係や支援について透明性を確保する必要があるという点が、定義規定と並んでもう一つの大きな論点となっている。昨日の首席交渉官会合では、こうしたテキストの本文に係る論点について、かなり突っ込んだやり取りがあった。実際にテキストを書き下してまとめるのは分科会の仕事なので、昨日の首席交渉官会合を受けて、今日も分科会を開催している。引き続き議論をした上で、例外の扱いを含めて各国に必要な作業の宿題を出すことになると思う。ハノイ会合後、それ程時間を掛けずに宿題返しをして整理をすることになると思う。

国有企業の後、SPSの交渉官が呼び込まれ、脚注の書き振りや残っている論点の調整がなされた。そういう意味で、SPSも進展しているが、ハノイの進展のイメージは、オタワのフォローアップの分野については、未解決の論点が完全になくなったわけではなく、そのかわり残された論点のレベルが非常に細かくなっているという意味で進展していると言える。本文の書き振りについてはおおむね合意が得られたが、脚注で明確にしたい場合などである。難航分野以外のハノイでの状況は、このような感じである。

分科会は、国有企業、環境、原産地規則が本日9日まで行われる。知的財産は10日まで開催される予定である。

本日9日は、9時から首席交渉官の全体会議が始まっている。市場アクセスの議論をし、残った時間は、ハノイで片付けようと分科会へ出していた宿題について、各交渉官から返しを受ける予定である。

明日の最終日は、首席交渉官の全体会議において環境を扱う予定。また、明日のブリーフィングでは、本日と明日の分をまとめてご説明する。

【質疑応答】

(記者) 国有企業について、国内で公共サービスを提供する場合には、政府の支援を認めるという点について、以前からそのような議論であったのか。

(澁谷審議官) その通り。

(記者) 今回、国有企業で進展があったのは、例外の扱いについてということか。

(澁谷審議官) テキストが今まであまり形になっていなかった。定義の話を決めるにも、例外にしたいものを見ないと分からないということもあり、オタワでは、アジアの国々を中心に例外にしたいもののイメージを聞き、その後、更に詳しい話を聞くなどのやり取りをしてきた。そのうえで、今回、テキストの書き振りの議論を首席交渉官レベルで本格的に行ったということ。

(記者) 作業部会に与えた宿題の結果を返してもらうために、首席交渉官会合を開くのか。

(澁谷審議官) 作業部会レベルで行う。

(記者) 国有企業の定義については、今回である程度まとまる見込みか。

(澁谷審議官) 議論が循環するので、第一条から順にまとまるというものでもない。仮に定義を決めても、それを前提にどういう規律を設けるのか、それぞれ自国に当てはめて考え、さらに例外扱いを考える。それでうまくいかないと、もう一度定義規定に戻ってくることになるので、全体をパッケージで決めないと収まらない。ただ、どういうものを詰めないといけないかについては、論点が整理されたので、今後の作業は進むのではないか。

(記者) 市場アクセス協議について、これまでの雰囲気はどうか。

(澁谷審議官) 大江首席交渉官代理が行っているハイレベルのものと、課長クラスで行っているものの2種類あり、お互いに連絡しながら行っているが、甘利大臣が今朝の会見で述べているように、日米以外のハノイでのやり取りは、前進があったと評価されるものだと思う。

(記者) 最終日に、今後の首席交渉官会合や閣僚会合の話はされるのか。

(澁谷審議官) 分からない。オタワでも具体的な会議のスケジュール決めはせず、むしろ宿題をいつまでにこなせといった作業スケジュールの議論が中心だった。

(以上)